天文学とプラネタリウム 第130回

www.tenpla.net

今月のお題

「空を見る」ことの広がり

切っても切れない関係の天文と気象。12月に開催された「そら」のイベントに参加してきました。

高梨直紘（東京大学）
平松正顕（国立天文台チリ観測所）

大学時代、「天文学を勉強している」というと「じゃあ就職先は気象庁？」と言われたことがあります。たしかに明治初期には気象と天文を観測する「観象台」という施設（現在の国立天文台の原点の一つ）が東京大学にはありましたが、今は研究分野としてはまったく別のもの。それでも、観測中の雲行きにやきもきした経験は本誌読者のみなさんなら数えきれないほどあるかもしれません。「見上げる」という共通点もあり、天文と気象は近い関係にあります。

そんな「空」をテーマにしたイベントが、昨年12月に幕張メッセで開催された『そら博』です。企画は気象情報会社のウェザーニューズ。本誌にも気象キャスターの山岸愛梨さんが何度か登場されていますね。ウェザーニューズの 24 時間お天気番組「SOLiVE24」には天プラのメンバーが 2 年ほど前からゲスト出演しており、また今年は国立天文台としても協力するという縁もあって、天プラの塚田さんがトークショーに出演、平松は国立天文台ブースでアルマ望遠鏡の紹介ポスターを展示しました。この他アストロアーツさんのプラネタリウムやグッズ販売があったり、著名な気象キャスターさんのトークがあったり、あるいは防災・減災に関するコーナーに起震車や土石流の模型があったりと、天気に限らず幅広く自然と人との関係を知ることのできるイベントでした。

イベントには、子供連れからお年寄りまで多くの方がいらっしゃいました。そら博全体から見るとアルマ望遠鏡は若干浮いているような印象でしたが、それが故に「何でこのイベントにこの望遠鏡が？」と興味を持ってくださる方もいて、アルマ望遠鏡についての解説をしっかり聞いていただくことができました。青空が鮮やかなアルマ望遠鏡現地の映像を流していたこともあり、天気に関心のある方の注目も集めることができたようです。また SOLiVE24 に私が出演するたびに取り上げているので、「もっと詳しく知りたい」と番組を普段からご覧になっていた方がいらっしゃることも。広がりを確実に感じることができました。

天文ファンの方にアルマ望遠鏡やその成果を知っていただくことはもちろん欠かせないのですが、天文ファンや理科ファンだけのものにしておくのはもったいない。今回は気象という近い分野との協力関係でしたが、デザインやアートの分野との協力の取り組みも続けています。次の一手も、またこのコラムでご紹介しようと思います。お楽しみに。

会場のアルマ望遠鏡ブース。向かいはアストロアーツさんのプラネタリウムドームでした。

130

130